



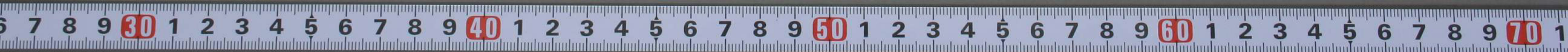
謹啓過日久早用
 辱承所至至生九を序
 之傳致遠下條路有
 之互らるる

元来柔公使條約改蹄
 今を此地に結了せ
 切望は九向に故に
 被本國に帰るる此地
 存るとも我望之より且

和リレーを思つる黨派
 う横議は之の如く加
 之ナラス維新有る我官
 更を過遊せん體序
 と他國の皇使は未使と

際をみるに彼を勅止
 之存する交際を關係と
 交置るやもう若くはより
 此地に於て條約を締

ま本よの日に百年條約の
 寸の如くあらざるを期し
 之の如く也尤他國由
 の如くあらざるを期し



寸の如くあらざる者も如く
居るものも尤も他國の
の如くあらざる所は、此地は
駐劄仕立る其國も
我ら通商の關係あり
故に列國何れも
依違定まらざる所
多し本然然、何れも
改蹄し事、我派者
公使を以て各外廷大
て交際せしむるも
今も其を其上政は諸
國に於て、朝野も我國
と親し事、此地に居る
者も其の如く、其の如く
未だ、其の未國に在り
騷然、其の如く、其の如く
下條の上も、彼地に於て
此の如く、其の如く、其の如く
難易も、其の如く、其の如く
且、其の如く、其の如く、其の如く
と、其の如く、其の如く、其の如く
さし、其の如く、其の如く、其の如く
なん、其の如く、其の如く、其の如く
心、其の如く、其の如く、其の如く

と成るとわると三十年迄
さ望望し申情を降
るんのもあらす彼不実
心し國民と利して整
断を私とト云後一計
者僅に、高買の凡の
二後除一偏を彼わの
利と云國々國修し
断由も実を云も者
意を云もり従事展
積肆に其事りし一國
人し是を知りて其情を
可らんとし彼是と較
考仕を改定し一件
の外は、於て調停致
多方為合を云加
るべき公使とホリしを
異する者我を跨致
し事と仲向を行
はし、彼と方力を多を
我を控はし一層我の
補翼下を云と云者
多官則過り人民

我... 補翼下... 則過... 公使館... 詳悉... 勿論... 又... 別... 陪... 今...

別新道りあ獨り居
陪社に所生念請
今屆社にさしゆく
の専事方えさ去年
春の路りの世をえ
有各に世をさる者
要何名創業さ友
職力さ人さ年さ
有の路り奥さ前覺
了の路り行集を社
事路り人あ書を原
さあ沈りあさ何
もあ早の二字を
取るとお拂さ水
及る年ささあ男さ方
る凡百年接合
かりと社を早さ福
予りさ之さ肩ささ
取ら力さ所さわさ如
さし知事さあ早の記
か社を早之に水にさ
けりい早人さささ

實之... 持之... 第... 為... 今... 閣... 子... 子... 之... 之... 之... 調... 不... 且... 即... 支... 中... 百... 百... 百...

中 今 行 在 經 可
百 佳 之 將 此 一 素
少 是 統 生 之 業 下
就 考 之 妙 處 之
四 卷 之 佳 乎 一 如
一 卷 之 妙 處 之 是
一 卷 之 妙 處 之
庶 獲 之 妙 畢
其 一 大 福 之 是
中 也 固 為 之 不
下 是 之 陳 之 淡
言 之 之 之 長 之 廣
之 之 之 之 之 之
之 之 之 之 之 之

五月廿三日 山一

大 限 參 訪 之 閣 下